

---

---

所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 城市 真理子

研究キーワード : 日本美術史、東洋美術史、水墨画、詩画軸、周文派、岳翁、  
雪舟、山水図、禅宗美術、肖像画、五山文化、大名文化、  
日本文化史

---

---

## ■研究テーマ

### ① テーマ：室町水墨画研究

概要：室町時代の漢画、特に、謎の多い画僧「周文」の周辺画家について研究しています。

岳翁や雪舟の初期作など周文派とされる画家は、同時に禅僧でもあり、当時の禅僧の文人意識がその制作にも投影されていますが、そのことが、実は、京都五山の禅宗寺院における絵画制作のシステム化（画僧の職業画人化・五山文学の絵画化）とも関わっています。周文派の作品研究や画僧研究、中世絵画の様式史研究とともに、絵画と文芸との関係、絵画評価の価値観まで探りたいと考えています。

### ② テーマ：中世の肖像画研究

概要：室町時代には、禅僧や大名、その家族の肖像画が制作されていました。肖像画には、しばしば画賛という禅僧による漢詩文が付されており、その人物のプロフィールや肖像画が制作された事情がわかります。室町時代にも、しばしば美術は政治戦略とも結びついていましたし、肖像画の像主や注文者のみならず画家もまた、同様に同じ時代の波の中にいました。絵画と政治性、そして亡き人の似姿を求める人の想いが一幅に凝集する肖像画は興味深い研究対象であります。

## ■研究テーマの応用例

広島市と周辺地域の文化史研究・文化財保存に寄与できます。

中世・近世美術は、質の高いものが地方にも意外なほど多く伝存しているながら、その評価がなされないままになっている例がしばしば見られます。中世に遡られる地域の文化を美術資料の探索・調査によって鑑識・評価し、文化財の保全への道を開くことができます。その際、資料調査の訓練を受けた学生の参加によっても、地域と大学との結びつきを強めることができます。

また、地方の文化史とはいえ、多くの場合、地域だけで完結するのではなく、京阪・江戸・博多など主要都市との文化的な交流があるので、全国的な研究の連携が想定できます。

さらに、美術史研究は文学・宗教・歴史など多分野の研究との関連が深いので、多領域の共同研究で、特に美術資料の評価について協力ができます。

## ■主な著書、発表論文

著書：『室町水墨画と五山文学』（思文閣出版、2012年2月）

## ■想定される連携先

- ・ 公的研究機関
- ・ 教育機関（美術館・博物館等）
- ・ 地域団体（社会教育の講座）
- ・ 地方自治体（文化課・文化財保護課）
- ・ NPO/NGO（観光・文化財保護・古美術や文化財に関する活動）